

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（学校法人 光華女子学園）

1. テーマ

生徒の困りを見逃さず個々の特性を理解し、効果的な支援方法や支援をつなぐ学校組織を確立し、教職員の専門性の向上をめざす

2. 問題意識・提案背景

- ・校内環境と適切な支援で生徒が安定すると、発達障害の可能性のある生徒の課題が見えにくくなる。しかし、環境の変化により課題がまた浮き彫りに成ることがある。次なる環境に正確に繋いでいくことが必要である。
- ・個別の支援を行える環境整備が必要である。
- ・教員の専門性向上のため研修は重要であるが、その後伝達研修を行うことで、（整理し自分で語る）効果も上がる。
- ・授業規律を大切に、見通しのある、わかりやすい授業展開と課題生徒を意識した授業が大切である
- ・学校組織全体でコミュニケーション力をつけるため、日常から相手意識を持ち、相手の思いを「感じる」「聞く」そして「伝える」など対話型授業は有効である。
- ・自己認識と自己肯定感を高める取組が重要である。

3. 指定校について

（中学校の場合）

指定校名： 京都光華中学校										
学級数及び児童生徒数										
	第1学年		第2学年		第3学年					
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数				
通常の学級	48	2	46	2	52	3				
特別支援学級	0	0	0	0	0	0				
通級による指導の対象者数	2		4		5					
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	相談員	その他	計	
1	1	11	1	6		2	1	1		24

(高等学校の場合)

指定校名： 京都光華高等学校										
学級数及び児童生徒数										
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
全日制	普通科	210	6	169	6	144	5			
	××科									
定時制	△△科									
教職員数										
校長 副	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	相談員	その他	その他	計
1+1	2	33	1	14	1	5	1	1	1	61

4. 指定校における取組概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援コーディネーターを中心に推進部会や個別ケース会議を開催しやすい組織体制を整える。 ・ 「気づきシート」やテストの解答用紙、ノートまた面談などにより本人の状況を把握し、共通理解し、個別の支援計画により支援を行う。 ・ 支援の必要な生徒に対して、教室での入り込み指導で状況を把握し、「放課後学び教室」で困りを和らげ、自己肯定感を高める取組を行う。 ・ 「読み」「書き」「音」と「文字」に課題のある生徒に対して、「読み」の練習用の定規やフォニックスの活用、ipad や、集中力・洞察力・イメージ力を高めるため遊び感覚でパズルや器具を使って指導を行う。 ・ ユニバーサルデザインを意識した授業を徹底すると共に、「言語活動の工夫」やコミュニケーション力をつけるため、対話型授業で、「聞く」「伝える」など相手意識を持たせるなど、日常の授業の工夫に力を入れる。 ・ 教員が研修後に伝達研修の講師を務めると共におすすめ図書を紹介を行う。 ・ 「気づきサロン」の場を開設する。 ・ 不登校生徒の教室復帰をめざした取組（SST や個別指導等）を行う。 ・ 支援アドバイザーの指導で授業を振り返り、支援を意識した授業の構築を図る。 <p>2 学期（支援員一人：教員 20 人個別指導） 3 学期（支援員一人：教員 7 人個別指導）</p>
--

5. 主な成果

- ・教員が一人で抱えるのではなく組織で支援を行う体制がとれてきた。
- ・生徒面談，保護者面談では受容を意識するなど，少しずつ意識の向上が見られた。
- ・支援コーディネーター中心に，SC等関係者でケース会議が持ちやすくなった。
- ・課題生徒に対しての支援方法をさぐるため，教員が授業で意識するようになった。
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業で，本時のねらい・学習の流れ等見通しを示して授業を行うことが定着してきた。
- ・「言語活動の工夫」を各教科で実践するため，専門家の指導を受け，熱心に研修を進められた。
- ・ICTの有効活用についての研究がすすめられた。
- ・放課後の学び指導で，課題生徒の困りを解消するため，教員も教材探しや指導の工夫をこらして試していこうとする意欲が見られた。
- ・積極的に研修に参加する教員がでてきた。研修会に参加後，校内研修会で伝達研修を行うことで，参加していない教員も研修を受けることができた。特に参加者は講師として研修成果を発揮することができた。
- ・「気づきサロン」を開設し，自己理解等自分をみつめる場が提供できた。

6. 今後の課題と対応

- ・中学から高校への引き続きで支援を行う時，また環境の変化のある場合等も支援が停止しないように「気づきのシート」を支援の連続に繋がるものとして改善する。
- ・中高大と支援の連続性のあり方や生徒の状況等の検証を行う。
- ・学校における早期支援体制がとれるシステムをつくっていく。
(日常的に取り組む特別支援教育を実践していく)
- ・コミュニケーション力をつけるため，日頃の授業の中で，支援を要する生徒を意識した小ステップ（ペアーワーク等）を取り入れながら，安心して学習できる環境作りが必要である。今後対話型授業を全面展開するカリキュラムなど必要である。研修の継続が必要である。
- ・教員の意識の変化については顕著なものが見られなかった。教員の意識の変化をみる尺度を再考したい。
- ・不登校傾向にある生徒への対応については，丁寧な取組から回復した事例も見られたが，個々の状況に応じた，より丁寧な対応が必要である。
- ・LD等の生徒の支援の方法や授業での様子等，定期的に保護者と連携をとることで効果があがりやすい。テストの実施方法も，「読み上げ方式等」を実施するなどして，変化を検証する。
- ・「気づきサロン」は一定効果が見られた。より効果的な方法と教員・SCとの連携のあり方を考えていく。

7. 問い合わせ先

組織名： 学校法人 光華女子学園 京都光華中学高等学校

(2) 所在地 京都市右京区西京極野田町 39

(3) 電話番号 0 7 5 - 3 2 5 - 5 2 2 3

(4) FAX 番号 0 7 5 - 3 1 1 - 6 1 0 3

(5) メールアドレス rh092@mail.koka.ac.jp